

タイの環境はいい？わるい？

～チェンマイ大学で分かったこと



千葉大生のタイ留学

「全員留学」を掲げる千葉大学で活動をしている、環境ISO学生委員会。そんな私たちに与えられた留学の機会が「タイ・チェンマイ大学への派遣プログラム」だった。協働プロジェクトを行っている京葉銀行様にご支援いただき、SDGsに関する優れた教育研究活動を展開するチェンマイ大学の取組を講義と実地視察、実験・実習を通じて学ぶことができる。実際に2022年度のプログラムに参加した学生の声をもとに、タイの環境問題とその取り組みについてまとめていく。

チェンマイ大学とは？

チェンマイ大学は、タイ北部に位置する国立大学で、文系、理系、医学部を有する総合大学である。日本語学科があり、「日本祭」という日本文化を用いたイベントも行われていた。



そんなチェンマイ大学では、SDGsへの取り組みがとても活発で、大学のSDGsへの取り組みをランキングづけする「The大学インパクトランキング」では2022年にジェンダー平等の項目で世界1位になっている。

チェンマイ大学の取り組み



チェンマイ大学は、ジェンダー教育が盛んな大学。具体的な取り組みとしては、女性の参入しにくい工学分野における女性プログラムを提供していたり、1993年に設立された女性研究センターを通じてタイの農村女性に司法研修を行ったりしている。

チェンマイ大学は年度ごとにSDGsレポートを作成しており、2022-2023年度版によると「RAINBOW's WORLD」というイベントを開催して、LGBTQ+の権利についての講演やHIV検査サービスの実





施などを行っているとのこと。タイはHIVの感染率が高く問題視されているため、その教育面にも力を入れている。また、5月12日の「国際看護師の日」には乳がん検診を行っており、女性に対する支援や啓発活動がとても高い頻度で開催されていることが分かる。

また、環境への意識も高く、学内で出たゴミを加工し再利用する設備が整っていたり、大気汚染に対する研究設備が充実し、アプリで手軽に大気汚染の度合いを確認できるシステムが整っていたりした。

タイの大気汚染

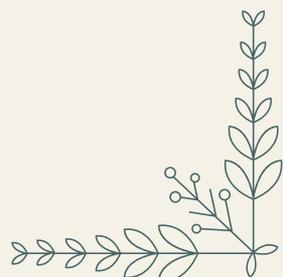
タイでは、主にPM2.5による大気汚染が深刻になっている。PM2.5とは、大気中に浮遊する微小粒子物質のこと。小さいため肺の奥深くまで入りやすく、ぜんそくや肺がんなど、人体への影響も懸念されている。タイの中でも、チェンマイのあるタイ北部で特に深刻である。チェンマイでは、大気汚染の程度を示す大気質指数(AQI)が、世界保健機関(WHO)が推奨する水準の19倍近くと、世界最悪である。AQIには0~500の範囲があり、数値が高いほど大気汚染は深刻である。日本では30以下のことが多く、高くても100程度であるが、チェンマイでは200を超えることもある。チェンマイ大学では、右のようなAQI指数をリアルタイムで示したモニターが、学内の各地に設置されていた。

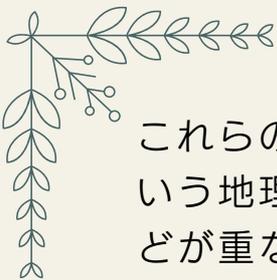


大気汚染の原因 & 季節による違い

現地で受けた講義によると、タイの大気汚染の原因としては、主に以下のようなものが挙げられるようだ。

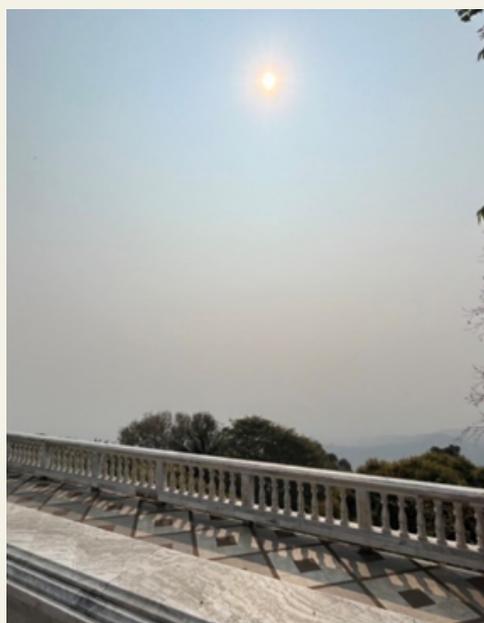
- 交通（車など）による排気ガス
- 産業による排気ガス
- 森林火災
- 農業での焼却（焼畑農業）
- 家庭でのごみ焼却





これらの原因に加え、周りが山に囲まれていて空気が溜まりやすいという地理的要因、風が穏やかで空気が逃げづらいという気候的要因などが重なり、ひどい大気汚染になってしまっているとのことだった。そして、上に挙げた原因の中でも特に大部分を占めるのが、焼畑農業による汚染である。

そのためタイでは、焼畑農業が行われる乾季（11月～3月ごろ）は特に大気汚染がひどくなり、焼畑農業が行われない9月～11月ごろは比較的大気汚染が落ち着く。



↑ドイ・ステープ寺院からの街並み
左(図1)：3月撮影 右(図2)：8月末撮影

図1,2はどちらも同じ、チェンマイ市内のドイ・ステープ寺院から撮影されたものである。3月に撮影された図1は大気汚染によってもやがかかったようになっており、街並みが見えない一方、8月末に撮影された図2は街並みがきれいに見渡せる。この2枚を見比べても、季節によって大気汚染の状況がかなり違うことが分かるだろう。先ほども述べたように、これは大気汚染の原因の多くを焼畑農業が占めているためであり、実際、大気汚染が最も深刻化する時期のPM2.5の原因は、47%ほどを焼畑農業が占める。





行ってみて感じたこと

環境ISO学生委員会のメンバーが実際にタイを訪れた2～3月は、現地では乾季にあたり、最も大気汚染が深刻になる時期である。学生に話を聞くと、想像していたよりも大気汚染の現状はひどかったと答える学生が多かった。星空が見えないだけでなく、晴れの日でも空一面が低い雲で覆われていて、青空が見られなかったことが印象に残っているようだ。目に違和感があったと健康被害を受けた学生もいたほどである。日本での生活に慣れている者にとっては、「おかしい」状況だが、大気汚染は現地では日常の光景となっている。



また、焼畑農業が大気汚染の大きな原因となっていることを知り、園芸学部で農業について学んでいる学生は、「農業が環境へ強い影響を与えることはないと思い込んでいた。」「焼畑農業が大気汚染に強い影響を与えており寂しい気持ちになった。」とショックを受けていた。

タイの環境から日本を見る



チェンマイ大学の先進的な取り組みや、タイにおいて深刻な環境問題は現地の文化や暮らしが関係していると言えるが、日本の現状に置き換えたり比較してみたりすることで、日本の環境を見つめなおすことができるのではないだろうか。より工業化が進んだ日本では、2020時点での二酸化炭素排出量は世界で5番目となっている。タイの暮らしを考えることが、私たち日本人の暮らしを考えることにもつながるのだ。

千葉大学環境ISO学生委員会では、2017年より「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」と題して、京葉銀行と協働してSDGsの達成に向けたプロジェクトを行っています。京葉銀行の行員や取引先企業をはじめ、地域住民や千葉大学の学生などの千葉県内の多くの方々をターゲットに、環境意識の啓発活動を進めていきます。

